株式会社クラレ「2025 年 12 月 経営説明会」質疑応答要旨

日　時　　2025 年 12 月 19 日（金）　10:00～11:15
場　所　　株式会社クラレ 本社　※会場と配信のハイブリッドにて実施
説明者　・代表取締役社長 川原 仁
・取締役 常務執行役員　ビニルアセテート樹脂カンパニー長 兼 ビニルアセテートフィルムカンパニー長、エレクトロニクスマテリアルズ推進本部担当　渡邊 知行
・執行役員　高機能中間膜事業部長　スティーヴン コックス
・高機能中間膜事業部プロダクトマネジメント部長　ジェニファー シュナイダー
・IR・広報部長　滝沢 慎一

質疑応答

Q1　〈セントリグラス®〉のガラス代替可能性、競合材料について。
A1　〈セントリグラス®〉はガラスの代替品ではなく、ガラスとガラスの間に挟まれる中間膜である。
競合材料としてはポリカーボネートや EVA がある。ポリカーボネートは耐爆、防弾などのセキュリティ用途で使われるが、耐久性の観点から〈セントリグラス®〉に優位性がある。また、構造用ガラスで EVA が使われることもあるが、保管や加工の難しさからそれほど普及していない。

Q2　〈セントリグラス®〉が普及する上での障壁について。
A2　普及への障壁は、製品の扱い方や使用によるメリットを建築家やラミネーターといった顧客にいかに理解いただくか、である。なお、上市当初はシート形態のみの販売で、加工の難しさから採用されないこともあったが、現在はロール形態でも販売している。加工設備についても、加工条件等は変更する必要があるが、PVB と同じ設備での加工が可能である。加えて、世界中に技術担当者を置き顧客サポートを行っている。

Q3　〈セントリグラス®〉の事業環境、自動車用途での成長可能性について。
A3　合わせガラス市場は年率 4%程度の成長を見込んでいるが、高いデザイン性やセキュリティへのニーズを背景に、構造用ガラス市場は 2 倍の 8～10%程度の成長を期待している。構造用ガラス市場では当社が大きな強みを持っており、今後もマーケットシェアを維持できると考えている。
現状、〈セントリグラス®〉の自動車用途は限定的であるものの、軽量化によるカーボンフットプリントの改善、デザイン性の向上に加え、車内エンターテインメント用ディスプレイなどの機能付加により、今後の成長を期待する用途である。

Q4　〈セントリグラス®〉の地域ごとの販売状況について。
A4　〈セントリグラス®〉の事業は米国のハリケーン対策として開始したことから、北中南米は依然主要な販売地域である。また、欧州やアジアでも積極的に事業展開しており、

最近では、中東地域での拡大を目指してドバイに販売拠点を設立した。

Q5　〈セントリグラス®〉と PVB との相乗効果、カニバリゼーションについて。

A5　当社としては、顧客に対し〈セントリグラス®〉が長期的に見て良い選択肢であることを訴求し、PVB からの切り替えを働きかける。ただし、〈セントリグラス®〉はニッチの中のニッチという位置付けであり、例えばビルの下層階は〈セントリグラス®〉、上層階は PVB といった使い分けになる場合もある。製品ラインナップとして両者を持つことで、顧客により良い提案が可能となる。

以上

注意事項

本資料は、説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたものではなく、理解しやすいように当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性 があることをご了承ください。